

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21553	
事業名	集団資源回収奨励費						
評価担当課	所属名	環)環境事業部 循環型社会推進					
	課長名	岡本 俊幸	担当者名	原・佐藤	電話番号	011-211-2928	
施策名	主	循環型社会の構築					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	ごみ排出量の減量(1人1日当たり100gの減量) 家庭から出る廃棄ごみ量の減量(1人1日当たり340g)				
		長期	ごみの減量・資源化を促進するため				
	取組内容	市民の自発的なりサイクル活動である集団資源回収の実施団体及び回収業者に対し奨励金を交付するとともに、集団資源回収がより利用しやすいように情報提供環境を整備する。 ①奨励金の交付:町内会、PTA等の住民団体が回収する古紙(新聞、雑誌、ダンボール、紙パック)、びん、金属、布の4品目を対象に、回収量に応じた奨励金や加算金を交付する。また、回収業者に対しても奨励金を交付する。 ②情報提供環境の整備:ごみ分別アプリやホームページの更新					
実施結果	・回収量:R02年41,255t→R03年39,760t(対前年比▲3.6%) ・支給団体数:R02年4,281団体→R03年4,303団体(対前年比0.5%)						
事業実施における工夫点	集団資源回収を利用していない共同住宅入居者の参加促進のため、管理会社や回収業者との連絡調整、チラシ作成など清掃事務所が地域(町内会)に対し必要に応じた支援を行っている。						
対象者	集団資源回収実施団体、回収業者			開始	平成3年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市集団資源回収奨励金交付要綱						
他都市の状況	政令市では、広島市以外の19市で実施。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	170,573	175,000	164,753	171,000	
うち特定財源	26	0	0	0	
人工	1.0	1.0	1.0	1.0	
人件費	7,200	7,200	7,200	7,200	
計(事業費+人件費)	177,773	182,200	171,953	178,200	
事業費の内訳	令和3年度決算	○報償費(奨励金)160,833千円 ・実施団体122,682千円、業者38,151千円 ○委託料2,530千円 ・実績報告受付業務2,530千円 ○その他1,390千円			
	令和4年度予算	○報償費(奨励金)165,739千円 ・実施団体126,733千円、業者39,006千円 ○委託料2,530千円 ・実績報告受付業務2,530千円 ○その他2,731千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	支給団体数		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	4,281団体	4,338団体	4,303団体	4,251団体
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	集団資源回収量		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	41,255t	42,109t	39,760t	41,255t
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	○回収量:新型コロナウイルスの影響や新聞発行部数の減少等により全体量としては目標を下回っているが、ダンボールや金属類の回収量は増加している。 ○支給団体数:増加している。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	家庭からごみステーションに排出される廃棄ごみの中には、新聞・雑誌・ダンボール等の集団資源回収対象品目が多く混入しており、これらの適切排出により集団資源回収量を増加し、ごみの減量とリサイクルの促進を図るためには、事業規模を拡充する余地がある。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	集団資源回収による資源物回収は、行政によるごみ収集と比較して約10分の1のコストで実施可能であることから、事業の効率性は非常に高い。また、町内会やPTA等の単位で実施することにより、地域コミュニティの活性化にもつながる有効な手法であると考えている。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	集団資源回収は、実施団体にとって、資源物の売却代金や市の奨励金が収入となり、さまざまな活動資金に充てることができるため、対象者の満足度は高いものと考えている。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	家庭から排出される燃やせるごみ及び雑がみには、集団資源回収の対象品目である新聞・雑誌・ダンボールが多く混入していることから、更なる資源物の適正排出を呼びかけていく必要がある。			
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	清掃事務所による共同住宅入居者への集団資源回収参加促進事業を行った。		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	市民の満足度が高い制度であるが、コロナ等の影響があるとはいえ、回収量が減少傾向にあることからB評価としている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 引き続き清掃事務所による共同住宅入居者への集団資源回収参加促進やごみ分別アプリやホームページでの周知拡大をするとともに、単身者等の集団資源回収の利用機会が少ない市民や市外転入者等の集団資源回収を認知していない市民にターゲットを絞った周知などを行う。		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 加算金の継続や集団資源回収の利用促進によって回収量の増加を図っていくが、新聞等発行部数の減少等が見込まれるため、予算は現状維持。		見直し効果額 0 千円